

ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙 第45号 2018年3月

目次

- 2018男女共同参画セミナー『ありのままで自分らしく生きる』……………1
- 2018国際女性デーひろしま『核兵器禁止条約』全力応援!……………3
- 広島市議会を傍聴しました!……………4
- 広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ……………4

報告

2018男女共同参画セミナー

『ありのままで自分らしく生きる』

～セクシュアル・マイノリティの人権について考える～



河川和也先生

2018年2月24日(土)広島市まちづくり市民交流プラザで、男女共同参画セミナーを開催しました。当日は20～80代の幅広い年代の方、セクシュアル・マイノリティ(以下、性的マイノリティ)当事者を含む80名の方が参加されました。

はじめに、広島修道大学人文学部教授の河川和也先生から、性的マイノリティ、LGBT(※1)の基本についてお話いただきました。主な内容は次のとおりです。

①LGBT以外に多様な性的マイノリティが存在し、LGBTよりも広い範囲を指す言葉としてSOGI(Sexual Orientation and Gender Identity 性的指向と性自認)が使われるようになっている。

②性的マイノリティは5.2%～8.0%(2015、2016年調査)存在する。

異性愛が当然で、同性愛を嫌悪、恐怖と感じるイメージが抱かれ、同性愛者自身も自分のセクシュアリティを受け入れられず、自尊心を損ない、多くの方は世間から身を隠して生きています。

さらに、2015年の調査から、性的マイノリティが置かれている社会的状況について次のようにご説明いただきました。

性的マイノリティは、①感情的に孤立し、社会のあらゆるネットワークや家族からも愛情、感情の面で切り離されていると感じ、②社会の中でも否定的に捉えられているために、ネットワークをつくることも困難であり、③情報が得られないことから、ロールモデルも見出しにくいなど、孤立している状況にあります。そのなかで子どもたちがいじめや暴力を受けたり、ロールモデルがないことに対する将来の展望が見込めなかったりと、結果、性的マイノリティの子どもたちの自殺率が異性愛者の数倍と言われている現状について報告されました。

次に性同一性障害の方たちの現状も説明され、学校現場や自治体や地域でのLGBTの取り組みについて紹介されました。広島でもエソール広島でLGBTの相談が始まっています。

河口先生のお話は、より具体的に整理され、とてもわかりやすい講演でした。

次に第2部に移り、当事者のみなさんによるトークセッションです。

はじめにトランスジェンダーで女性から男性に戸籍上も性別を変更された當山敦己さんからお話いただきました。

當山さんは小学校高学年に胸が膨らみ、生理もはじまって、女性であることに違和感を覚えました。中学校では女子の制服を着せられていることに抵抗があり、制服の上からジャージを着ていたそうです。高校のときには念願だった男子の制服を着用、その一方で自分が性同一性障害だったらどうしようかと不安におそわれました。一番身近な妹さんからも否定され、「自分は変だ」「気持ち悪い存在なのか」と自分を肯定できない状況でした。大学入学後、就活の時期に女性のスーツが着られず、大学の授業をサボるようになって、「自分は当たり前のことでもできない」とどんどん自分のことを否定している状態になっていました。そのときに応援してくれる存在があって前向きになり、メンズスーツを着て教育実習に行き、卒業後男性として就職しました。その後名前も変更、乳腺摘出手術、性適合手術も受けて、2017年1月に戸籍も女性から男性へ変更されました。

當山さんは、お風呂に入ったり、パートナーと手をつないだりと「普通に」暮らしたいと話し、会場のみなさんに、現状見えない存在となっているトランスジェンダーたちについて理解してではなく、まず知って欲しいと訴えられました。また、當山さんは月1回、性のことで悩む子どもと保護者のためのコミュニティスペースを開設されていることを紹介されました。



トークセッションの様子。左から 當山さん、安達さん、河口先生

次にレズビアンの方の安達菜穂子さんです。安達さんは高校2年生のときに「同性愛者ではないか」と思い始め、周囲との違和感や疎外感がぬぐえず、高校へ通えなくなりました。ただ、お母様から受容されて自分を否定することはなかったということでした。

自分の周りはレズビアンである自分を否定する人ばかりで敵だと思っていましたが、大学1年のときに偏見について扱う授業に出席したことをきっかけに匿名でカミングアウト、大学2年になると少しずつカミングアウトし友人からも受容されました。

大阪の大学院に入学、レズビアンバーで働き現在のパートナーと出会って、パートナーの家族からも受容され4年前にカナダで結婚しました。

他者から受け入れられる経験によって「ありのままの自分」になれたとお話いただきました。

安達さんは、「未知のものは怖いと思います。私が『ありのままの私らしく生きる』ことを見て知ってもらうことで、誰かがありのままの自分らしく生きる手助けをしたい」と言われました。

会場から、お二人や先生にそれぞれの性的マイノリティの悩みなどについて質問があり、トークが進みました。現在の結婚制度に問題があり、制度を見直していかなければいけないとの意見もだされました。

アンケートではセミナーについて72%の方が「大変良い」と評価され、「良い」を合わせれば100%になり、参加者ほとんどの方が満足されたことがうかがえます。感想のところでは若いお二人が明るいことや楽しさが伝わってきた、とか、知り受容することが大切と大変好意的な感想が寄せられました。ただ、高齢の方からは「受容したいし、しようと思うが、自分の子どもだったらと思うと受容できないかもしれない」と正直な感想も寄せられました。

このセミナーを企画したのは、これまでひろしまWENETでDVの問題を取り上げるなかで、やはりジェンダー（※

2)の問題を取り上げる必要があること、しかしその前提である男性、女性の定義自体がゆらいでいる状況で、性の問題について学ぶ必要があると考えたことでした。

今回、取り組んでいて気になったことは、性的マイノリティのみなさんが、ジェンダーに捉われるのではないかとことです。しかし今回出演された当事者のみなさんは、パートナーとの関係もとても自由だという印象を受けました。性的マイノリティのみなさんもそれぞれ百人百様でしょうが、ジェンダー規範から自由でいられる可能性を感じました。河口先生をはじめ、トークゲストはとてもフラットで、お話をしても気持ちよく受け入れていただきました。きっとセミナーに参加された会場のみなさんにも、率直に、そして明るく前向きなゲストのお話に、元気をもられたことと思います。(啓発部会 中嶋典子)

※1 LGBTとは L:レズビアン(女性同性愛者)、G:ゲイ(男性同性愛者)、B:バイセクシュアル(両性愛者)、T:トランスジェンダー(性同一性障害者)のこと

※2 ジェンダーとは 生物学的な性別ではなく、社会的、文化的につくられた性別のこと。女らしさや男らしさ、性別の役割分担、性別の規範などを指す

報告

2018国際女性デーひろしま 『核兵器禁止条約』全力応援!

今年のテーマは「『核兵器禁止条約』全力応援!」でした。集会参加者は160人と盛会でした。

講演は日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の藤森俊希さんをお願いしました。講師依頼交渉の最中、飛び込んだニュースがICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のノーベル平和賞受賞のニュースです。これは広島市民だけでなく、世界の平和を願う人々の大きな喜びと希望になりました。その授与式に藤森さんが出席されるということも本当に嬉しいことでした。



藤森俊希さん

藤森さんのお話はわかりやすく臨場感にあふれた内容でした。特に今回の条約が採択されるまでの国際会議での経過を紹介され、2016年「ヒバクシャ国際署名」の提案で、すべての国が核兵器を禁止し廃絶する条約を締結することを呼びかけ、2020年に開かれる国連総会まで毎年国際署名を届けると訴えられました。またICANのノーベル平和賞の授賞理由の核兵器禁止条約への革新的努力についての紹介がありました。最後にこの間のノーベル委員会委員長ベリット・ライシュ＝アンデセンさん、被爆者のサーロー節子さん、ICAN事務局長のベアトリス・フィンさん、条約交渉会議議長のエレイン・ホワイトさん、国連軍縮担当上級代表の中満泉さんなど女性の活躍を高く評価され、私たち参加者にもエールをいただいた気持ちがしました。



基町高校生「原爆の絵のとりにくみ」の様子

後半は、若者の登場です。広島市立基町高校の「原爆の絵のとりにくみ」では、原爆の絵の作成にあたっての素直な気持ちや、平和の大切さを学んだ二人の高校生の新鮮な気持ちを受け止めました。そして高校生平和大使は、国内を問わず世界に出向き原爆の話や平和についての交流を真摯に取り組み、今後も平和を追求していくとの発言で深く感動しました。最後にピースボートでの被爆者との関わりや留学の中で作詞作曲をはじめ、地元広島を拠点に広島人と世界をつなぐ場づくりに挑戦中の「せとまゆ」さんのミニライブがあり、優しい歌声に会場が温かさに包まれました。

恒例の展示についてですが、今年は核兵器禁止条約に署名した56か国のうち、駐日大使館・領事館のある47か国に応援メッセージを依頼し、12か国の大使からメッセージが届きました。どの国の大使も核兵器禁止条約が採択されたことをとても重要なことと受け止め、自分たちも全力応援していくという立場を表明されています。その中でも女性の行動力への賛辞が多くありました。同様に広島県選出の国会議員宛にもメッセージを依頼し、3人の方からメッセージが寄せられました。すべてのメッセージ文は、集会資料に掲載し参加者に感動を与えました。このメッセージは、広島市まちづくり市民交流プラザロビーとゆいぽーと1階ギャラリーで展示しました。(報告 松村愛子)

3月5日、広島市議会の予算特別委員会(厚生関係)を傍聴し、山内正晃議員(市民連合)、森本健治議員(自民党・市民クラブ)、森島秀治議員(自民党・保守クラブ)、平木典道議員(公明党)の発言を聞きました。発言要旨はAEDの整備と管理について、救急相談センター事業について、広島キッズシティについて、指定管理者の選定についてなどでした。

私たち庶民の生活に密接なことばかりで、興味深く聞きました。特に救命率の向上につながるAEDの公益施設等における整備については、整備ガイドラインを定め、計画的に設置を進めている。日常点検整備等についてはAED提供施設をお願いをし、地域への貢献として理解協力の重要性を認識しました。

また、広島キッズシティについて、子どもたちが職業体験を通じて自ら考え・行動し・体験するという活動内容の紹介がありました。ひとりでも多くの賛同者が集い、広島の街を進化させる大きな運動の推進につながる意味からも、検討課題があるように思えました。

この度傍聴したことで、私たちは日ごろから市政への関心を持ち、市民の願いである平和な生活が維持できるよう、見守り、知恵を出し、研究していくことが求められると感じました。(学習部会 北節子)



予算特別委員会の様子

広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET) からのお知らせ

男女共同参画社会の実現に向けて、わたしたちと一緒に活動してみませんか
 当会では、男女共同参画社会の実現に寄与するため、啓発活動、学習・調査研究活動、各種事業への協力などを行っています。私たちと一緒に活動していただける団体会員・個人会員を随時募集しています。

お知らせ

ピンクリボンdeカープ

2018年度「ピンクリボンdeカープ」の開催日が決まりました。ピンクリボンの活動にもご参加下さい。

日 時:5月13日(日) 午後13:30～ 阪神戦
 会 場:マツダスタジアム

広島市女性団体連絡会議・2018年度総会

日 時:6月16日(土) 10:00～12:00
 場 所:広島市男女共同参画推進センター(予定)
 (ゆいぽーと)

ヒロシマ平和の灯のつどい

たくさんの方々のご参加をお待ちしています。

日 時:7月31日(火) 17:30～
 場 所:平和記念公園等

まめ知識

～ひとりで悩まないで先ず相談を!～

DV被害をうけた人のうち、
 だれ(どこ)にも
 相談しなかった人の割合 → 50.0%

DVの相談窓口を
 知っている人の割合 → **女性** 48.2% **男性** 45.6%

過去1年間以内に
 暴力を受けた女性の割合 → 3.1%

(出典:平成28年度広島市市民意識調査)

<相談窓口>

広島市配偶者暴力相談センター

(中区富士見町11-22)

女性相談員による相談

Tel:082-545-7498 Fax:082-249-7498

(月～金10時～17時 祝日・8月6日年末年始を除く)